

## 巻頭言



香川県知事 池田 豊人

# 国際交流の推進と多文化共生社会の実現に向けて

香川県は、四国の北東部に位置し、南は讃岐山脈、北は穏やかな瀬戸内海に面しています。大小さまざまな島々が点在し、風光明媚な多島美を誇る瀬戸内海は、瀬戸内海国立公園として日本で最初の国立公園に指定されています。

昨年は、こうした瀬戸内の島々を舞台に、「瀬戸内国際芸術祭 2025」が盛大に開催されました。この芸術祭は、3年に一度、国内外の多様なアーティストが島々の自然や歴史・文化と融合した作品を発表する場として広く知られており、海外からも多くのお客様をお迎えしました。また、本県と瀬戸内海を挟んだ大阪府では「2025年日本国際博覧会」が開催され、本県としてもさまざまな国や地域との活発な交流を行うことができました。今後は、こうした芸術祭や万博を契機として、国際的なネットワークがより強化され、地域の多様性や創造性が高まるとともに、さらなる交流の進展が期待されます。

本県といたしましては、今年度も引き続き、中国陝西省、イタリアパルマ市、台湾桃園市、ベトナムハイフォン市の友好・交流都市や、海外の県人会との交流を促進し、相互の発展を目指した協力関係の構築を図ってまいります。

さて、経済、文化などあらゆる面で国際化が急速に進展する中、留学生や技能実習生の増加に伴い、全国的に外国人住民数が大きく増加しております。本県でも、令和元年末に14,266人であった在留外国人数は、コロナ禍の令和2年、3年は減少したものの、コロナによる水際対策が緩和されたのちは増加に転じ、令和7年6月末では20,671人となっており、今後も、グローバル化の進展などにより外国人住民が増加することが予想されます。

こうした中、本県では、令和3年11月に「新かがわ多文化共生推進プラン」を策定し、外国人住民を支援の対象としてのみ捉えるのではなく、日本人住民と共に地域社会の担い手として社会参画を促進し、地域活性化につなげるという視点を新たに追加し、外国人住民の生活支援やコミュニケーション支援、防災面における支援など、各種施策に取り組んでいるところです。とりわけ、昨年度、一般財団法人自治体国際化協会の助成をいただいて実施した、多文化共生のまちづくり促進事業では、スポーツ交流イベントや外国人住民会合など、異なる文化的背景を持つ人々が交流し、意見交換する場を設け、互いの相互理解と連携を一層深めることができました。

今後も、外国人住民と日本人住民が、互いの文化や生活習慣などを尊重し、共にいきいきと安全・安心で豊かな生活を営むことができる社会を目指して、市町や教育委員会、国際交流団体と連携しながら、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。